

平成23年度
社会福祉法人はばたき福祉事業団
事業報告書

平成23年4月1日 から 平成24年3月31日まで

平成 24 年 3 月 31 日

社会福祉法人はばたき福祉事業団 平成23年度事業報告

今年度はエイズ認識から30年、また薬害エイズ裁判和解から16年が経過し、HIV感染症に対する抗HIV薬による治療が感染者を希望ある将来が持てる時代の到来をもたらした。一方、ここ数年の変化の中で、HIV/AIDSが及ぼす多様な身体的合併症の表出や社会生活の困難性の未解消など、多難な壁が立ちはだかっている。改めて被害患者やHIV感染者の将来に、先行的長期療養の敷設が必要であるという課題を負うようになった。

事業の主体である相談業務については、相談件数は1,389件で昨年度に比べ21件の微増にとどまった。

なお先行的な事業としては、HIVあるいは被害者救済にかかわる研究班の立ち上げや参加を行い、長期療養や合併症による新たな医療への提案、また血友病等慢性疾患自己管理や社会参加への道を広げる実践的研究を行った。その成果物の一部として報告書を関係機関や広く市民に届けるための図書館への寄贈活動も行った。

被害者遺族への対応は、「和解の枠組みにとられない」対策の一つとして、人間ドック的な健康支援調査事業が研究事業として立ち上がった。秋口から対象者希望を募り、10人枠の予定でACCの協力を得て開始し、今年度は8人が参加した。遺族実態調査委員会の報告書ができ、あらたな対策の一部として遺族健康支援事業、相互支援等自主活動などが提示された。

運営に関し、事業を支える運営基盤としては、遺族等相談事業の国補助金、HIV/AIDSの支援事業としての北海道委託事業補助金、HIV検査・相談室実践のための札幌市委託事業、研究にかかわる研究班経費、そしてはばたき支援への賛助会員会費や寄付金が充てられている。

HIV感染者の相談業務及び薬害エイズ被害者の救済を恒久的に行うには上記補助金や研究費は直接の運営人件費が出ないところで極めて厳しいところがある。敢えて充てられるのは賛助会費や寄付金等であるが、この数年は削れる限りの経費の節減に努力した。その結果、自己資金の取り崩しを抑えることができた。

I. 社会福祉事業

1. 身体障害者の更生相談に応ずる事業

(1) HIV感染症や血友病の障害者等にかかわる自立や医療健康相談の対応

事務所（本部、北海道支部（札幌）、東北支部（仙台）、中部支部（岐阜）、九州支部（福岡））にて、患者・家族からの電話・手紙等郵便物・メールや相談室での面接による来訪相談を行った。また事務所は、相談員、事務局員により、地域性を考慮した相談会の企画・運営を行うなど、相談事業運営にあたった。

法人の行う相談事業は、『一人一人を大切に』を課題に、個別相談を中心にして、個々の状況に応じたフォローを行っている。各種相談事例を事務局全体で受け止め、相談者の負担軽減が少しでも向上するよう適切且つ継続的な対応と、対応の質の向上を図るため、週1回ケースカンファレンスを行っている。特に被害者については恒久的救済のフォローをするため、個人用ファイルのような相談事例の長期保存が必要。このケースカンファレンスには固定の専門家相談員に参加してもらい、総合判断力とスムーズな対応の向上に努めた。

薬害被害の資料館構想に対応する検討会が国で始まり、13年度から始めた「はばたきライブラリー」の検討会委員の見学があった。HIV感染症・血友病・薬害エイズ関連資料・福祉・医療等々の資料整理

を進めているが、紙資料も含め引き続き登録作業を進める。

はばたき公式ホームページも随時更新して常に新しい情報を伝えるようにしている。ホームページは23年度も改良を行い、より見やすく親しみのあるものへの改訂を進め、今年度初めにリニューアルバージョンを公開した。

北海道支部は新たにカウンセラーが配置され、週3日、専門家として対応した。道委託事業（患者家族支援事業・医療者ネットワーク事業・エイズ情報収集提供事業）、検査相談室「サークルさっぽろ」での検査相談事業と対外的な活動に力を注ぎ、道内でのHIV対応のNGOとしての力を発揮した。北海道支部のホームページを新たに立ち上げ、支部活動を広める役割を果たし始めた。

東北支部は、東日本大震災後、事務所の再開を目指してはいたが、23年度は準備段階まで行かずに検討中で終わった。機能としては東北在住の相談員との連携しつつ、本部からのサポートをしっかりと行った。

中部支部は今年度は個別訪問に力を入れた。これまで中部支部を中心的に支援してきたNGO「PLUS」が解散し、1,228,647円の寄付をいただいた。

九州支部ではHIV感染者の就労や偏見・差別解消に取り組み、他の人権啓発団体との連携やマスコミの活用をすすめて、昨年からの成果をより積み上げた。また、長期療養の研究班にも支部の相談員が協力者として参加し、九州の被害者との連携を強める機会となった。

①電話相談

相談員等による電話相談窓口を開設し、HIV感染症患者／障害者・家族・遺族等からの電話による相談を相談員等・専門家相談員が受けた。

電話相談件数全体は898件で175件増加。（17年度；242件、18年度；514件、19年度453件、20年度；619件、21年度；728件、22年度；723件）。フリーダイヤル利用は、継続的相談者での利用が多いが、今年度は減少した。メールによる相談は増加、手紙相談は微増。なお、遺族・家族からの手紙相談が多い。全体的に肝臓・がん等の治療や医療機関問い合わせ、近況報告、年金、また遺族からは家族や血友病相談、医療機関の受診など高齢化による自身の相談等が目立った。

一般の相談としては、感染不安、検査後の結果待ち期間での不安、病状相談などがあり、感染不安相談が一番数としては多い。

電話・メール・手紙による月間相談件数（本部・北海道支部・東北支部・中部支部・九州支部の合計。／前年度比）。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施日数	21	21	21	21	22	21	21	21	18	18	20	21	246
電話相談件数	63 /10	71 /27	75 /18	56 /7	66 /9	73 /-39	51 /-8	65 /22	53 /11	81 /30	122 /37	122 /5	898 /175
メール相談件数	33 /33	38 /36	11 /7	15 /13	7 /2	18 /8	5 /-6	35 /31	25 /17	8 /3	16 /7	7 /-7	218 /142
手紙相談件数	5 /-17	42 /36	14 /12	0 /-5	9 /4	6 /-3	3 /-12	5 /1	6 /0	12 /6	16 /8	13 /0	131 /30

※（電話相談件数の内154件はフリーダイヤルにより相談17年；85件、18年；106件；19年69件；20年114件；21年；180件、22年213件）

（【参考：相談室別室】今年度の利用の特徴は、脳内出血後のリハビリ看病、肝硬変悪化による看病、等々遠方からの本人・家族利用、外来処置が遅くなり帰宅不能のための臨時使用などが目立った。相談室別室利用95日使用）

②個別面接相談

事務所相談室（相談室1及び相談室2、各支部相談室）で、相談員等による遺族・患者・家族等の面接相談を行っている。今年度は遺族・患者・家族の事務所での面接相談は60件（17年度；13件、18年度；44件 19年度；34件 20年度；41件 21年度；60件 22年度；52件）。精神的な悩みが主になり、頻度高く面接相談に来た。また就労、年金、血友病治療・遺伝の相談も目立つ。遺族からの面接相談は、遺族の健康や将来の相談、保因者の娘等々、親族の血友病遺伝の相談が増えている。

面接相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施日数	21	21	21	21	22	21	21	21	18	18	20	21	246
相談件数	5	7	5	1	5	0	2	4	6	3	8	14	60

③ 広報

○被害者向け相談情報『壁新聞』の発行 5回(45-49号)発行。23年度は、ページ数は4ページと少ないが、回数を増やして情報提供やはばたきとのつながりをできるだけ多くするきっかけづくりとした。『壁新聞』は、はばたき福祉事業団相談員・事務局が編集・発行している。

④ ライブラリー

○資料収集・管理について

新聞記事等は、記事を切り抜き、A4紙に貼り付け、分類してファイリング。HIV/AIDS関連記事などはスキャンして読み込んだ。電子保存化したものは、現在はホームページの貴重な情報提供等の基となっている。また、公開については分類を進め、次年度順次ホームページ上に掲載してバーチャル資料館の役割を高めていく。

○ホームページ

はばたき福祉事業団のホームページでは、薬害エイズ関連の情報提供、再発防止のための取り組みとして血液事業・献血推進や医療について積極的な情報を掲載している。バーチャル資料館の役割を担う大きな支えとなっている。

23年度はばたき福祉事業団公式ホームページ 訪問者数 22,170人 新訪問者数:56.07%(12,425人)

⑤ ケースカンファレンス

ケースカンファレンスを1回/週(水曜日 10:30~12:00)、定期的に行った。参加者は、はばたき相談員等と専任の専門家相談員。相談事例によっては支部・地域相談員も参加。ケースカンファレンスでは、電話、手紙、メール、来訪、訪問等での相談者を対象とした。ケースカンファレンスを行うことによって、被害者一人一人のケースフォローが深まっている。相談事例を専門家相談員とともに検討することで、相談員等のレベルアップにもつながっている。検討事例 1214件(18件減)。

ケース検討月間件数※17年度累計数;272件、18年度;590件、19年度712件、20年度;792件21年度;895件、22年度;1232件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回数	4	3	5	4	5	4	4	4	3	3	5	4	48
検討件数	89	102	139	67	88	71	88	118	75	86	175	116	1214

(2) 訪問相談

遺族・患者・家族等などからの要請によって、相談者の自宅もしくは入院中の病院、相談者の希望する場所に、相談員等が出向き相談を受けた。今年度は49件と8件増えた。

23年度訪問相談月間件数。 ※17年度;46件、18年度;64件、19年度;63件、20年度;62件、21年度;41件
22年度;47件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談件数	2	5	3	0	2	6	7	5	5	4	6	4	49

(3) 啓発資料

○『薬害HIV感染被害者・家族等の現状からみた、血友病に係わる今後の課題及び課題克服への支援研究報告書(23年度)』;(坂田班)

○『HIV・HCV重複感染血友病患者の長期療養に関する患者参加型研究報告書(23年度)』;(山下班)

○『小児がん患者・経験者自立支援プログラムの整備報告書(23年度)』;国立成育医療研究センター

- 『血友病の保因者 カナダ血友病協会』血友病の基本的知識、遺伝と保因者検査や保因者の健康管理など。
- 『血友病の骨格筋問題 世界血友病連盟 第12回国際骨格筋学会』加齢やリハビリ、インヒビター対応など。
- 『血友病患者のためのエクササイズ キャシー・マルダ』関節問題とエクササイズ
- 『血友病ファクトシート』血友病に関する医療、福祉、歴史を事実（FACT）に基づき情報提供をする。
- 『HIV陽性者生活支援 虎の巻（北海道版）』療養施設など社会資源についての北海道内の利用ノウハウ
- 『第25回エイズ学会参加 第6回スカラシップ委員会報告書（共同発行）』 HIV感染当事者団体等3団体でエイズ学会参加の会費・旅費補助のため、寄付を募り、選考に該当した感染当事者に補助。6回目は43人参加（応募者51人）。5回目は50人、4回目は48人、3回目は57人、2回目は43人、1回目33人が参加している。HIV感染症の最新の治療や医療環境などを勉強する機会とした。所定のシンポジウムと報告書提出の義務がある。
- 『機関紙』 機関紙「はばたき」2回 31号、32号。発行部数3,000部

(4). 相談会事業

なお、はばたき福祉事業団では、独自の小さな地域遺族相談会を年4回以上、全国で実施している。小さなきっかけから打ち明けができる機会を増やしていくことを目指した。この5年を見ても、亡くなる被害者が年間10人はおり、新たに遺族になる人が増えている。残念ながら遺族数が増えていることへの対応もこうした地域相談会で対応していきたい。

地方相談会

本部・支部の全体の取り組みで、全国の被害者の実情や今後の救済事業反映のため、それぞれの地域に合った相談会を企画・実施した。昨年度同様、深刻化しているHIV/HCV重複感染やその治療意欲、また医療機関の予防治療の徹底などをテーマにした医療講演会・相談会をおこなった。病気に向き合っていないために適切な医療機会を失う患者・家族がいることなど、厚労省やACC／ブロック拠点病院の意識向上を改めて要求していくことにつながった。遺族を対象とした独自の遺族相談会を行った。最近指摘されていたが、支部の中に遺族対応が十分でないところもあり、本部の担当者が中心に遺族対応を行ない、連携を保つ努力を始めた。

地域医療相談会 【HIV／HCV重複感染、その他医療相談会】

各地域の実情にあった医療講演会・相談会を行った。また、ACC・ブロック拠点病院での協議などに地元患者・家族の相談会を実施。開催地区；北海道地区4回、東北地区2回、関東甲信越地区4回、北陸東海中部地区1回、近畿地区1回、九州地区1回。計13回

地域相談会 【地域遺族相談会、地域相談会】

地域限定のはばたき遺族相談会（3回）を開催し、年2回の遺族相談会（のぞみの会）を補完するとともに、より個別対応の充実を目指した。支部と本部の連携の下に、地域の実情を考慮した相談会を地域相談会として開催した。北海道地区1回、東北地区1回、関東甲信越地区3回、北陸東海中部地域1回。計6回。

(5). 研修会事業

相談事業をより充実させそして円滑に目的を遂行するため、相談員等が、事業団運営や相談事業について研鑽し、質的向上と企画設計能力をつける研修会を行った。また、社会福祉法人として公的仕事に従事することから、社会福祉法人としての相談事業の取り組みについて研修を行う。

23年度；7回実施（全国相談員会議 東京3回、遺族対象相談員会議 4回）

北海道医療ネットワーク事業 5回

1. HIV 検査相談担当者研修会 (23 年 6 月 26 日 札幌市)
2. コ・メディカル向け研修会 (23 年 10 月 29 日 札幌市)
3. HIV 陽性者の生活支援研修会 (23 年 11 月 12 日 札幌市)
4. HIV 診療にかかわる通訳者研修会 (23 年 12 月 21 日 札幌市)
5. 第 2 回北海道 HIV 情報交換会 (24 年 3 月 3 日 札幌市)

2. 法人本部

はばたき福祉事業団は、平成 18 年 8 月 28 日、厚生労働大臣認可の第 2 種社会福祉事業を行う社会福祉法人として認可された。同年 8 月 30 日設立（設立登記）。

はばたき福祉事業団は、1997 年 4 月設立後、9 年を経て社会福祉法人となる。社会福祉法人資格を得て相談事業を核に、薬害 HIV 感染被害者を中心とした事業団職員が被害救済と被害教訓及び事業実績を生かして社会福祉に貢献することにより、当初の設立目的の被害救済と公共の福祉に対する事業をさらに広がりを持って行うことができるようになった。

はばたき福祉事業団の法人経営は、社会福祉法人はばたき福祉事業団役員（理事 8 人、監事 2 人）の理事会の決定に基づき運営される。そして、運営等について評議員会（評議員 21 人）の諮問を受ける。

理事会で決定された法人運営は、理事長、事務局長（1 人）のもと、支部事務局長（3 人）、常用職員（3 人）、非常用職員（相談員を含む 19 人）が実務を執行。

社会福祉法人はばたき福祉事業団は、社会福祉事業と公益事業の 2 事業を遂行する。主たる事業になる社会福祉事業は、厚生労働大臣認可の全国法人としても稀な身体障害者の更生相談に応ずる事業の運営を行っている。この事業では、これまで培ってきた救済事業としての相談事業を更に拡張し、HIV 感染者や血友病などの障害者手帳を持つ障害者・家族の相談事業を担っている。また、これまで相談事業の中で行われていた薬害エイズ感染被害者遺族等については、公益事業として遺族救済としてさらに充実化に努めている。

（1）本部・支部事務所

- ① 業務時間 午前 9 時 30 分～午後 5 時
- ② 業務担当 事務局長、支部事務局長、会計担当者、ホームページ担当職員を定めた。
- ③ 事業設備 本部：東京都新宿区新小川町 9-20 新小川町ビル 5 階
北海道支部：北海道札幌市 東北支部：宮城県仙台市
中部支部：岐阜県各務原市 九州支部：福岡県福岡市
- ④ 職員・非常勤職員
常用職員： 4 人（本部 2 人、北海道支部 1 人、東北支部 0 人、九州支部 1 人）
非常用職員： 7 人（本部 3 人、北海道支部 2 人、九州支部 2 人）
相談員： 12 人（本部 8 人、東北支部 1 人、中部支部 2 人、九州支部 1 人）

（2）運営資金

通常経費 ・ 事業運営資金

- ・ 受託事業 ①平成 23 年度エイズ患者遺族等相談事業 委託費
(委託者：財団法人友愛福祉財団)
- ②札幌検査・相談室「サークルさっぽろ」(委託者：札幌市)
- ③HIV 患者・家族支援事業 (委託者：北海道)

- ・ 助成金 ①平成 23 年度厚生科学研究費補助金（坂田班、山下班）
- ②平成 23 年度成育医療研究委託事業
- ③共同募金会補助金
- ・ 賛助会費・寄附金

Ⅱ. 公益事業

1. 薬害エイズ遺族等支援事業

(1) 遺族相談会

遺族相談会は、東京・大阪の遺族相談員が遺族交流の意味を含めて合同で企画・開催している。実施にあたっては、当事業団では企画・実施担当である遺族相談員をバックアップするため、事務局全体で積極的に対応している。18 年度から年 2 回実施。遺族相談会は担当する遺族相談員のみが現場での対応をするため、相談員の高齢化や参加する遺族被害者の高齢化等々も考え年 2 回の開催とした。企画にあたっては、小人数のグループに分かれての話し合いを中心に言い、遺族同士が他で話せない事も気兼ねなく話すことが出来るように十分に配慮し実施している。一方、遺族の自立も役割として大切に、開催に際してできるだけ社会との接点を広げられるよう、考慮している。20 年度から自助による相談会の本来の姿をめざして、担当相談員に頼る相談会運営から、参加者それぞれが役割分担をして、視野の拡大や自立のための踏み込みを強めた企画・運営に取り掛かった。『遺族相談会（のぞみの会）』の参加は、遺族と弁護士と専門家相談員。個別相談の希望者には相談員とともに専門家相談員や弁護士が対応している。今後の運営については、担当相談員の高齢化や費用負担も考え、事務局のバックアップ体制も再考していく。

1 回『遺族相談会（のぞみの会）』 平成 23 年 6 月 18 日(土)-19 日(日) <香川県>
香川県木田郡 参加者 35 人（はばたき参加者 17 人）

[小数のグループに分かれての話し合いをメインに行った]

内訳	一般	弁護士	専門家	相談員	計
はばたき	9	2	2	4	17
たんぽぽ	6	2	2	8	18

2 回『遺族相談会（のぞみの会）』 平成 23 年 10 月 15 日-16 日（日）<富山県>
富山県黒部市宇奈月温泉 ホテル溪仙 参加者 42 人（はばたき参加者 18 人）

[心の健康をテーマに講演を行った]

内訳	一般	弁護士	専門家	相談員	計
はばたき	10	2	2	4	18
たんぽぽ	12	2	2	8	24

(2) 献花

献花は昨年度、3 月 11 日に発生した東日本大震災で、交通網の寸断により輸送ルート確保が問題となり、また花材問題で遺族の理解を得て延期した。そのため、23 年度は 23 年 6 月（昨年度分として）と 24 年 3 月の 2 回おくことにした。

1 回目 6 月 9 日 248 件
2 回目 3 月 28-29 日 243 件

※21 年度 ; 252 件

(3) 新たな遺族支援のための調査事業

健康支援事業

先行的に、東京はACC、大阪は国立病院機構大阪医療センターを窓口にはばたき福祉事業団（東京）・考える会（大阪）との連携を密に健康検診調査研究事業を行った。

はばたき福祉法人は、臨床心理を専門とする研究者（専門家相談員）を事務局にして、遺族・相談員・専門家相談員・ACC担当者との具体的連携をとり、パイロットスタディを開始した。東京・大阪各10名枠で、人間ドックに準じた検査を行う。8人が実際に健康検診調査研究対象としてACCで実施。事前相談、検査後の結果相談、フォローアップの手厚い体制を整えた。

2. 教育啓発事業

第8回ははばたきメモリアルコンサート（2月16日）開催 千駄ヶ谷「津田ホール」

入場者は約300人以上。今回の迫田朋子さんによる朗読は、被害者から聞き取ったものを詩にした朗読「ぼくのおじさん」（作曲家 池辺晋一郎氏の即興伴奏）で、大変好評だった。

次回は25年3月に同上会場で第9回コンサート開催予定。

その他

- ・平成23年度公益財団法人エイズ予防財団「血液凝固異常症全国調査運営委員会」参加
- ・平成23年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「血液凝固異常症のQOLに関する研究」血液凝固異常症QOL調査運営委員会参加
- ・厚生労働省薬事・食品衛生審議会血液事業部会参加
同運営委員会参加
- ・献血推進の在り方に関する調査会参加
- ・血漿分画製剤の供給の在り方に関する検討会参加
- ・エイズ予防指針作業班参加
- ・日本赤十字社血液事業審議会委員参加
- ・公益財団法人献血供給事業団評議委員会委員

資料編

資料 1. 平成 23 年度 ケースカンファレンス検討件数と事例

週に一度、相談事例を専門家相談員とともに検討する「ケースカンファレンス」を毎週水曜日 10:30 から 12:00 に定期的におこなった。その後の対応等を検討した。

回	23 年度日付	検討相談（件数）	主な事例への対応
1	4 月 6 日	22	HCV 治療、肝硬変・胆管癌治療、震災の影響による献花の対応と近況報告、遺族相談会の問合せ、遺族健康相談窓口
2	4 月 13 日	20	震災後の安否確認と近況報告、HCV 治療と医療機関受診の検討、相談室別室（宿泊施設）利用、長崎大学入院検査
3	4 月 20 日	17	リポディストロフィ手術後のインタビュー依頼、医療者のかかわり、就労、障害者手帳についての情報
4	4 月 27 日	30	生活全般、HIV・HCV 治療、肝移植、就労（差別偏見）、近況報告
5	5 月 11 日	54	HIV・HCV 治療、長崎大学入院検査、遺族相談会について、原告団総会の出欠の返信と近況報告、遺族の喪失・悲哀
6	5 月 18 日	24	医療者のかかわり、薬剤中毒、HIV・HCV 治療、長崎大学入院検査、遺族相談会について、医療機関への不満
7	5 月 25 日	24	献花、HIV 治療、近況報告、長崎大学入院検査、就労、医療機関の利用
8	6 月 1 日	34	就労、原告団総会の出欠の返信と近況報告、献花、HIV 治療、医療機関の受診と利用、精神的不安定
9	6 月 8 日	19	HIV・HCV 治療、長崎大学入院検査、血友病治療、人工関節手術、長期療養聞き取り調査
10	6 月 15 日	18	感染不安、生活全般、医療者に関する悩み、長崎大学入院検査、HCV 治療
11	6 月 22 日	46	献花のお礼・近況報告、リポディストロフィ術後検診、長崎大学入院検査、医療機関の受診と利用
12	6 月 29 日	22	遺族相談会参加にての相談・感想、近況報告、HCV 治療、血友病治療、股関節手術
13	7 月 6 日	18	近況報告、血友病・HIV 治療、感染不安、腎結石
14	7 月 13 日	17	父親インタビュー、やまゆりの会、近況報告、感染不安、発症者手当
15	7 月 20 日	17	近況報告、やまゆりの会について、医療機関の利用、配布物
16	7 月 27 日	15	地方相談会のお誘い、近況報告、感染不安、二次感染者検診の誘い、死亡連絡、宿泊施設利用
17	8 月 3 日	4	地方相談会のお誘い、遺族の悲哀・喪失、近況報告、死亡連絡の詳細、相談ケースのアドバイス
18	8 月 10 日	13	やまゆりの会参加の感想、地方相談会、長崎大学入院検査、障害者手帳、血友病・HIV 治療、二次感染検診
19	8 月 17 日	15	地方相談会の誘い、配布物、近況報告
20	8 月 24 日	34	地方相談会の出欠と近況、遺族調査研究事業の問合せ、弁護士との関わり
21	8 月 31 日	22	地方相談会・近況報告、遺族調査研究事業、血友病・糖尿病治療、一人暮らしの患者の死亡連絡
22	9 月 7 日	17	長崎大学聞き取り調査、医療者のかかわり、遺族相談会申込み、遺族調査研究事業、インヒビター治療
23	9 月 14 日	17	遺族相談会についての問合せ、長崎大学入院検査、近況報告
24	9 月 21 日	21	遺族の喪失・悲哀と健康状態、遺族相談会問合せ、感染・検査不安、人工関節手術、長崎大学入院検査の問合せ
25	9 月 28 日	16	近況報告、遺族の悲哀、遺族調査研究事業、リポディストロフィ
26	10 月 5 日	44	近況報告、治療闘病、遺族調査研究事業、遺族相談会・献花について、長崎大学入院検査、血友病・HIV 治療、医療機関の利用
27	10 月 12 日	8	遺族調査研究事業（健診受診・訪問のお礼）、遺族相談会の問合せ
28	10 月 19 日	27	遺族相談会での相談・対応、血友病・HIV 治療、近況報告
29	10 月 26 日	9	長崎大学入院検査の病院側の対応、感染不安、関節手術
30	11 月 2 日	12	遺族調査研究事業（日程調整等）、HIV 治療・糖尿病、北大の対応、ACC 血友病包括外来

31	11月9日	25	遺族調査研究事業、ACC治療検診、長崎大学入院検査、医療機関の受付や対応について
32	11月16日	32	遺族調査研究事業、長期療養調査（iPad）入力、近況報告、発症者手当、精神的不安定
33	11月30日	49	就労、地方相談会の出欠と近況報告、長期療養調査（iPad）入力の問合せ、遺族調査研究事業、長崎大学入院検査、血友病・HIV・HCV治療
34	12月7日	13	地方相談会の出欠と案内、近況報告、感染不安、職場・社会の偏見、遺族検診の感想、血友病・HIV治療
35	12月14日	37	遺族の喪失・悲哀、地方相談会のお礼、長期療養調査（iPad）入力について、近況報告、障害年金、感染不安、医療機関の対応について、精神的不安定
36	12月21日	25	フォローアップインタビュー、就労、感染不安、遺族調査研究事業、障害年金打ち切り等への対応
37	1月11日	30	遺族調査研究事業、遺族の喪失・悲哀、感染不安、障害年金打ち切り等への対応、郵送物
38	1月18日	30	差額ベッド代について、遺族健康診断のお誘い、障害年金打ち切り等への対応、感染不安、訪問相談依頼、就労
39	1月25日	26	死亡連絡、遺族健診とコンサートのお誘い、遺族調査研究事業、感染不安、医療者のかかわり、死亡連絡、精神的なストレス
40	2月1日	24	コンサートのお誘い、差額ベッド代、遺族調査研究事業（申込みと事前訪問）、感染不安・告知、長崎入院検査、C型肝炎調査
41	2月8日	28	障害年金、コンサートのお誘い、ACC受診について、遺族健診、HIV・HCV・血友病治療
42	2月15日	39	職場の悩み、ACC受診、近況報告、医療者のかかわり、遺族調査研究事業、樹状細胞療法、感染・検査不安、C肝調査事業の申請、医療費、保険診療、障害年金
43	2月22日	33	献花の案内・変更と近況報告、遺族調査研究事業、樹状細胞療法、リポディストロフィ、感染不安、ACC医療体制、自己骨髄移植療法
44	2月29日	51	コンサートでの集い、献花、遺族調査研究事業、樹状細胞療法、障害年金、近況報告、感染不安、医療機関の受診と利用、薬剤配送サービス
45	3月7日	37	死亡連絡、生活全般、遺族調査研究事業（健診）、献花・近況報告、障害者介護サービス、障害年金、宿泊施設利用、就労、精神的な問題
46	3月14日	29	精神的不安定、遺族調査研究事業、献花、近況報告、樹状細胞療法、障害年金
47	3月21日	16	遺族調査研究事業（健診）、遺族の喪失・悲哀、インターフェロン、精神的不安定、近況報告、障害年金と医薬品機構の申請、C肝調査事業、人工関節手術、感染不安、家族・職場への伝え方
48	3月28日	34	遺族調査研究事業、HCV治療、樹状細胞療法、近況報告、薬剤配送

資料2. 平成23年度 主な面接相談（来訪相談）

	来訪日	相談者	内容
1	4月5日	本人	C型肝炎調査の申請とその説明。体調と仕事とのバランス。
2	4月19日	本人	血友病以外の持続性のあるてんかんなどの病気で悩んでいる。働くことでQOLを向上させたい。
3	4月22日	医療者	担当している患者が地震以来引きこもりがち。薬も変えて、気力を出せるようにしたい。
4	5月2日	本人	骨密度の検査で、40代の若さで70歳代ということを経験に言われた。生活は張りが出てきた。
5	5月18日	本人	ここ1-2カ月精神面での不安。服薬もおっくう。死んだ方がいいのではとたまに思う。精神科も5分診療で何も話せない。
6	5月23日	医療者	遺族・二次感染者の体調やその後のフォローについて。主治医の相談。
7	5月24日	本人	就労と医療機関受診・病状の問題。就労に際しての病名の問題。
8	5月24日	本人	汚染製剤投与の医療者の話。患者・家族の医療者に対する根底的な不信がわかる。
9	5月24日	本人	自分の近況報告と脳内出血で寝たままの友人の生活や医療の心配。

10	6月1日	本人・妻	医療機関や地域社会での不安。家族との信頼について。弁護士相談や心のカウンセリングの必要性。
11	6月15日	本人	医療機関の対応不信。治療は順調のようだ。
12	6月20日	本人	入院検査の同意書の書き方、長崎入院検査。リポディストロフィ検査などのスケジュール。ACG 通院の帰り。
13	8月15日	本人	近況報告と結婚報告。HIV や肝臓なども悪くはない。結婚して食生活や服薬管理も良くなった。ACG 通院の帰りがけ。
14	8月23日	本人	地方相談会の準備などの相談。ACG 通院の帰りによる。
15	8月24日	本人	近況報告。実家近くに一人暮らしする予定。精神的にも落ち着いている。ほかの地域の地方相談会に参加。行って良かったが今後もうくとは限らない。
16	8月25日	遺族父	20年ほど前に子供を亡くした。今は妻と二人暮らし。人が集まるような会合には出席しにくい。(地方相談会で)
17	9月25日	遺族父	妻と老後の二人暮らし。田舎で畑仕事をしている。近況とコンサートの話。(地方相談会で)
18	10月17日	本人	人工関節、足首、リポディストロフィについて。医療機関への不信と、被害者の医療をしっかりやってほしいことを要望した。
19	10月18日	一般本人	就労での自分の病名や健康状態をどう告げているかなどの情報を得たいと来訪。
20	11月15日	本人	リポディストロフィのフォロー、就労について。
21	11月22日	本人	人材紹介会社紹介の依頼。腎臓結石が見つかり、対応の不安。
22	11月22日	本人	友人の近況報告。妻がアルコール依存症等で、深刻な状況。子供の心配。
23	12月12日	医療者	独自行動をとる先生がいて医療体制がまとまらない。
24	12月13日	医療者	薬剤の配送についての相談。
25	12月19日	本人	国民障害年金が支給停止になった。関節が悪いといってもそれだけ動けば3級にも該当しないと。医療機関の更新に対する対応や、本人の認識、年金事務所の認識の甘さが重なった。
26	1月15日	本人	股関節置換手術とその後の出血。近況報告。
27	2月21日	本人	C型肝炎調査事業の近況報告について、ACGの主治医は患者の方から言わないと何も動かない。検査内容も不安。
28	2月21日	本人	友人の件の報告。自宅療養していたが食べ物をのどに詰まらせ誤嚥性肺炎で現在入院。
29	2月21日	本人	知己の遺族への連絡方について。
30	2月24日	本人	縁戚の患者がかんで検査入院中。対応についての相談。
31	2月22日	本人	医療者のかかわり、近況報告と友人被害者の心配
32	3月5日	本人	仕事上のトラブルや家庭内での問題で、私的にまいつている。
33	3月13日	本人、妻	相談先で二人で来るようにしてあったため、妻と上京。妻の話聞くことに重点を置いた。ほとんど二人に会話がない。仕事を辞めて二人だけのことを考えることを勧めた。

資料3. 平成23年度 主な訪問相談

○遺族訪問相談 6件

	23年度	場所		主な事例への対応
1	9月12日	神奈川県川崎市 の会場	遺族訪問相談	健康状態、自宅での仕事について。息子への思い。夫への不満。告知されないまま抗HIV薬を飲まされた医療者への不信は増大。時間の経過とともに重い心の傷を言えるようになったのかもしれない。
2	9月28日	愛知県名古屋市 会場	遺族・患者 訪問相談	退院後の様子伺い。 長い入院生活で心身ともに弱っていて、もう死んだ方がましかなと悲観的。
3	11月9日	自宅 (東京都江戸川区)	遺族訪問相談	検診異常なし。一人暮らしの様子。息子への思い。親族が亡くなりショックをうけている。
4	11月28日	自宅 (山梨県西八代郡)	遺族訪問相談	特に不調はないが不安で億劫になり、閉じこもり気味。二次感染者検診をすすめる。
5	12月12日	自宅 (東京都杉並区)	遺族訪問相談	仕事、体調について。遺族健診は不要。
6	1月26日	静岡県熱海市会場	遺族訪問相談	兄への思い、幼少時代のこと。両親のこと。

○患者訪問相談（病棟、外来、会場、その他） 26件

	23年度	場所		主な事例への対応
1	4月19日	山口県山陽小野田 市ホテル会場	患者聞き取り 調査	HIV薬を変更したいが、主治医が詳しくないので悩んでいる。
2	5月9日	九州医療センター	患者訪問	股関節手術後の様子伺い。理学療法士がきてリハビリをしている。
3	5月25日	九州医療センター	患者訪問	股関節手術後の経過。意欲がわからない。
4	5月28日	大分県大分市 ホテル会場	患者聞き取り 調査	体調、足首の激痛、趣味のこと。セコム医療配送サービスについて。仕事は休まず勤務。今後介護サービス等希望。
5	6月15日	名古屋医療センター	患者訪問	入院後しばらくしての訪問。元気そうに見えるが、薬などまだ安定した治療の域になっていない。
6	5月29日	大分県	原告団総会後 の食事会	原告団全国総会に参加後の感想。
7	6月2日	九州医療センター	患者訪問	転んで右股関節あたりを打ち違和感がある。手術した左足の可動域がせまくなっている。
8	6月15日	名古屋医療センター	患者訪問	入院中だが体調的には元気そう。退院後の自宅療養について
9	6月23日	九州医療センター	患者訪問	右股関節の手術、九州支部、体調のこと、大分の原告団のこと。
10	8月3日	北海道帯広市 ホテル会場	患者聞き取り 調査	現在の体調について。血友病に関して。股関節等に可動域制限あり。家族、生活、経済的なこと。
11	10月6日	北海道旭川市 ホテル会場	患者聞き取り 調査	肝臓・HIVともに数値は良い。平日は実家の商売の手伝い。そろそろはばたきの集まりに参加したい。
12	10月6日	北海道旭川市 ホテル会場	患者聞き取り 調査	人を使ってお店をやっているが、体力的にきつい。小学生の娘を中心に生活。CD4は高いが、肝炎がかなり悪化している様子。
13	10月7日	北海道北見市 ホテル会場	患者聞き取り 調査	病気、仕事のこと。生活での楽しみは家族と一緒に過ごすこと。製剤の配達サービス、介護サービス利用について。
14	10月7日	北海道北見市 ホテル会場	患者聞き取り 調査	安心して通院できる所へ移り住んで仕事をしたい。その準備として結石の手術をして体調を整えたい。
15	10月21日	九州医療センター	患者訪問	顔色は土気色、少しむくみ。一度も目を開けない。

16	12月6日	ACC 外来	患者訪問	体調、関節置換手術について。
17	12月7日	北海道函館市 ホテル会場	患者聞き取り 調査	体調、経済面、趣味、心理状態など。
18	1月11日	患者の事務所 (北海道)	患者訪問	冊子作成にあたりインタビュー。膝の関節痛が一番辛い。 肝臓の状態は一時期悪い時期以降、横ばい。HIVの方は安定。全 て移動は車。
19	2月7日	ACC 病棟	患者訪問	出血原因不明だが、回復に向かっている。
20	2月14日	ACC 病棟	患者訪問	大分医大より転院。絶食で顔が痩せていたが、声は元気。回復期 に入っていた。
21	2月21日	ACC 病棟	患者訪問	医療者のかかわり。データについて、自己管理と主治医以外のチ ェックの必要性。
22	3月12日	相談室別室 (ガレージK)	患者訪問	自己骨髄細胞治療でACCに入院。付き添いの施設利用の説明・案 内等。
23	3月13日	ACC 病棟	患者訪問	宿泊施設の設備確認。貧血、腹水で体調悪い。
24	3月13日	相談室別室 (ガレージK)	患者・家族訪問	電気器具の点検など。
25	3月27日	駅	患者訪問	駅で遭遇。近況報告。
26	3月28日	厚労省	年金課担当者	対応が悪い年金機構の窓口の是正と、取扱いを要望。

○遺族調査研究事業（事前訪問） 8件

	23年度	場所		主な事例への対応
1	9月22日	自宅 (東京都三鷹市)	遺族調査 事前訪問	希望する検査項目や体のこと。
2	9月29日	自宅 (福島県郡山市)	遺族調査 事前訪問	希望する検査項目や体のこと。
3	11月10日	自宅 (愛知県名古屋市)	遺族調査 事前訪問	希望する検査項目や体のこと。息子への思い、ペットの話。
4	11月17日	ACC	遺族調査 事前訪問	兄弟に脳梗塞をした人がいて自分も心配。経済的な厳しさ。子供 のこと。
5	1月17日	自宅 (徳島県鳴門市)	遺族調査 事前訪問	被害者としての生活と意識。日々の生活での相当なストレス。
6	1月18日	ACC	遺族調査 事前訪問	希望する検査項目や体のこと。息子が亡くなった時のこと。
7	2月7日	福島県いわき市 会場	遺族調査 事前訪問	体調、仕事のこと。息子が亡くなった後、離婚。
8	2月29日	ACC	遺族調査 事前訪問	参加の動機、身体で気になること、性格、亡くなった息子の話。

○派遣カウンセリング 7件

1	4月6日	札幌市中央 保健センター	一般相談	家族へのタイミングで陽性の結果を話すか。
2	8月31日	札幌市中央 保健センター	一般相談 派遣カウンセ リング	検査で擬陽性の判定。確認検査を受けるにあたり採血、その後カ ウンセリング。検査結果がでるまで不安。
3	9月7日	札幌市中央 保健センター	一般相談 派遣カウンセ リング	陽性告知後、カウンセリング実施。この1週間が一番つらかった。 誰にも話さず最後まで行きたい。
4	11月30日	札幌市中央 保健センター	一般相談 派遣カウンセ リング	擬陽性の結果告知。 今後の治療、職場、経済的な不安。
5	12月14日	札幌市中央 保健センター	一般相談 派遣カウンセ リング	擬陽性カウンセリング対応後、陽性。結果告知後すぐに病院へ向 かったため、カウンセリングは受けず待機終了。

6	1月31日	旭川医科大学病院	一般相談 派遣カウンセ リング	4回の服薬中断あり。優等生発言が多い為、精神面、および性格傾向や特徴などのアセスメントを目的に実施。言葉が表面的で感情とリンクしていない印象。
7	2月29日	帯広厚生病院	一般相談 派遣カウンセ リング	胸部に影が見つかり精神状態不安定。自傷行為が度々見られ、精神科とあわせてカウンセリング実施。初対面の人に一から話すのが面倒。

○その他 1件

1	10月22日	共働事業講座の後 駅で	遺族・家族	共働事業の講座に参加できた感想。息子の体調のこと。
---	--------	----------------	-------	---------------------------

資料 4. 主な地方相談会

相談会名	開催日	会場名
<地方相談会> 医療相談会「HIV 医療講演・相談会」(札幌市) 北海道	平成 23 年 5 月 8 日 北海道支部	HIV、エイズの北海道の状況や治療薬・副作用情報。抗 HIV 薬の副作用としての骨密度の検査の重要性/北海道/札幌アスペンホテル/(8人)
<地方相談会> 地方在住の評議員や理事との懇談と相談対応(東京) 全国	平成 23 年 5 月 14 日 本部	全国の情報と新たな問題点の提示/三京ビル/(20人)
<地方相談会> 中部支部での総会における相談会(江南市) 東海・中部	平成 23 年 5 月 15 日 中部支部	患者・家族・遺族の近況と現状・相談件数4件/すいとびあ江南/(4人)
<地方相談会> 原告団総会での全国被害者の懇談会(大分市) 全国	平成 23 年 5 月 29 日 本部/九州支部	患者・遺族の現状把握と医療情報提供/大分市コンパルホール/(30人)
<地方相談会> 医療相談会「はばたき薬害患者・北大相談室交流相談会」(札幌市) 北海道	平成 23 年 7 月 24 日 北海道支部	生活上の困難さや不安について/北海道難病センター/(11人)
<地方相談会> 神奈川地域の集い。相談会(横浜市) 神奈川県	平成 23 年 8 月 25 年 本部	はばたきの事業内容の説明。患者の原状、遺族(相談2件)の近況など/横浜プラザホテル/(10人)
<地方相談会> 医療相談会 ACC 運営協議会事前相談会(東京) 全国	平成 23 年 10 月 11 日 本部	被害患者の現状と課題について/国際協力棟会議室/(10人)
<地方相談会> 北陸ブロック三者協議事前相談会(金沢) 北陸	平成 23 年 10 月 24 日 本部	北陸地域の治療現状と在住の被害者での困難点の抽出/石川県立中央病院/(8人)
<地方相談会> ACC 患者会(新宿区) 東京・全国	平成 23 年 10 月 29 日 本部	最近の HIV 感染症に関わる合併症やエイズ国際会議などの最新情報について。国立国際医療センター大講堂/(55人)
<地方相談会> 北海道地方ブロック拠点病院三者協議事前相談会(札幌市) 北海道	平成 23 年 10 月 31 日 北海道支部	北海道ブロックの医療、ブロック拠点病院の機能について相談/(15人)
<地方相談会> 東海地方ブロック拠点病院三者協議事前相談会(名古屋市) 東海・中部	平成 23 年 11 月 10 日 中部支部	HIV 医療体制や救済医療の取り組み、中核拠点病院継続問題について意見交換/国立名古屋医療センター/(7人)

<p><地方相談会> 関東・甲信越ブロック拠点病院三者協議事前相談会（新潟市） 関東・甲信越</p>	<p>平成 23 年 11 月 29 日 本部</p>	<p>関東甲信越ブロックに全国の感染者が集中している。その医療体制と被害患者の救済医療の両立をはかる（相談 2 件）／自治会館／（10 人）</p>
<p><地方相談会> 第 25 回日本エイズ学会学術集会での集まり（新宿区） 全国</p>	<p>平成 23 年 11 月 30 日 -12 月 2 日 本部</p>	<p>はばたきが関連するシンポジウムに集まった被害者の相談会／高輪プリンスホテル／（80 人）</p>
<p><地方相談会> ACC 包括外来说明会（新宿区） 全国</p>	<p>平成 23 年 12 月 3 日 本部</p>	<p>ACC に救済医療室の設置をして、被害者の原状回復医療を推進する要とする診察室の幕開け。リハビリなども推進。／ACC 外来／（20 人）</p>
<p><地方相談会> 関東甲信越医療講演会（新宿区） 関東・甲信越</p>	<p>平成 23 年 12 月 6 日 本部</p>	<p>関東甲信越地域の医療と日本全体の HIV 医療について／日本青年館／（120 人）</p>
<p><地方相談会> 近畿地方ブロック拠点病院三者協議事前相談会（大阪市） 近畿</p>	<p>平成 23 年 12 月 15 日 本部</p>	<p>近畿地方の患者の動向と医療機関での実施状況の報告と討議／大阪医療センター／（15 人）</p>
<p><地方相談会> 九州地方ブロック拠点三者協議事前相談会（福岡市） 九州</p>	<p>平成 23 年 12 月 26 日 九州支部</p>	<p>九州地方の医療・医療機関の現状について／国立九州医療センター／（20 人）</p>
<p><地方相談会> 中国・四国地方ブロック拠点病院事前相談会（広島市） 中四国</p>	<p>平成 24 年 1 月 13 日 本部</p>	<p>広島を中心に中四国の被害者らとの相談会／（6 人）</p>
<p><地方相談会> クロスエイト 30 周年相談会（新宿区） 関東</p>	<p>平成 24 年 1 月 14 日 本部</p>	<p>クロスエイト発売 30 周年の懇親会上一の隅で、近況報告を聞く（相談 5 件）。／ニューオータニ／（15 人）</p>
<p><地方相談会> 地方在住の理事との懇談と相談対応（新宿区） 東京都</p>	<p>平成 24 年 1 月 18 日 本部</p>	<p>被害者の近況と、問題点の把握。／はばたき相談室／（12 人）</p>
<p><地方相談会> 東北地方ブロック拠点病院事前相談会（仙台市） 東北</p>	<p>平成 24 年 1 月 20 日 東北支部</p>	<p>東北地方の医療事情について報告と相談／仙台医療センター／（12 人）</p>
<p><地方相談会> エイズ学会参加スカラシップ報告会（渋谷区） 東京都</p>	<p>平成 24 年 2 月 5 日 本部</p>	<p>スカラシップを利用してエイズ学会に参加した HIV 感染者らによる報告会。スカラシップの意義を再確認し、感染者の自立につながった／津田ホール会議室／（43 人）</p>
<p><地方相談会> メモリアルコンサート開催前被害者相談懇談会（渋谷区） 全国</p>	<p>平成 24 年 2 月 16 日 本部</p>	<p>コンサート開催前に、来場する被害者が相談員と懇談。互いに近況を確かめあう（相談 5 件）／津田ホール会議室／（11 人）</p>
<p><地方相談会> 「第 8 回はばたきメモリアルコンサート」（東京都渋谷区） 全国対象</p>	<p>平成 24 年 2 月 16 日 本部</p>	<p>会場を日大カザルスホールから千駄ヶ谷津田ホールに移した。遺族から聞き取った話をもとに詩を朗読／津田ホール／（300 人）</p>
<p><地方相談会> 地方在住の評議員や理事との懇談と相談対応（新宿区） 全国対象</p>	<p>平成 24 年 3 月 18 日 本部</p>	<p>全国から患者・遺族・家族の代表や有識者が集まる。懇談の席上で課題や相談対応をする。／笹笠町会館／（30 人）</p>

＜地方相談会＞ 「葉害エイズ裁判和解 16 周年記念集会」 (東京都千代田区) 全国対象	平成 24 年 3 月 24 日 本部	／東京ステーションコンファレンス ／(80 人)
＜地方相談会＞ 医療相談会「旭川 患者・家族相談会」(旭 川市) 北海道	平成 24 年 3 月 31 日 北海道支部	HIV 感染者が利用できる制度の説明、 肝臓や腎臓の状況を知る／旭川ターミ ナルホテル／(12 人)

資料 5. 23 年度 研修会事業

開 催 日	平成 23 年 4 月 21 日	参加人数	14 人
研修会名	事務局・相談員研修会	会 場	家の光会館 (東京都新宿区)
主 な 事 項	内容：「23 年度相談事業について。遺族・患者・家族の現状や研究班課題などを研修」		

開 催 日	平成 23 年 6 月 20 日	参加人数	8 人
研修会名	遺族相談会・相談員研修会	会 場	トレスト白山 (香川県木田郡)
主 な 事 項	内容：「遺族相談会を終えて課題の整理と反省会」		

開 催 日	平成 23 年 7 月 28 日	参加人数	5 人
研修会名	遺族相談会・相談員研修会	会 場	はばたき福祉事業団相談室 (東京都新宿区)
主 な 事 項	内容：「次回の遺族相談会や遺族地域相談会の検討」		

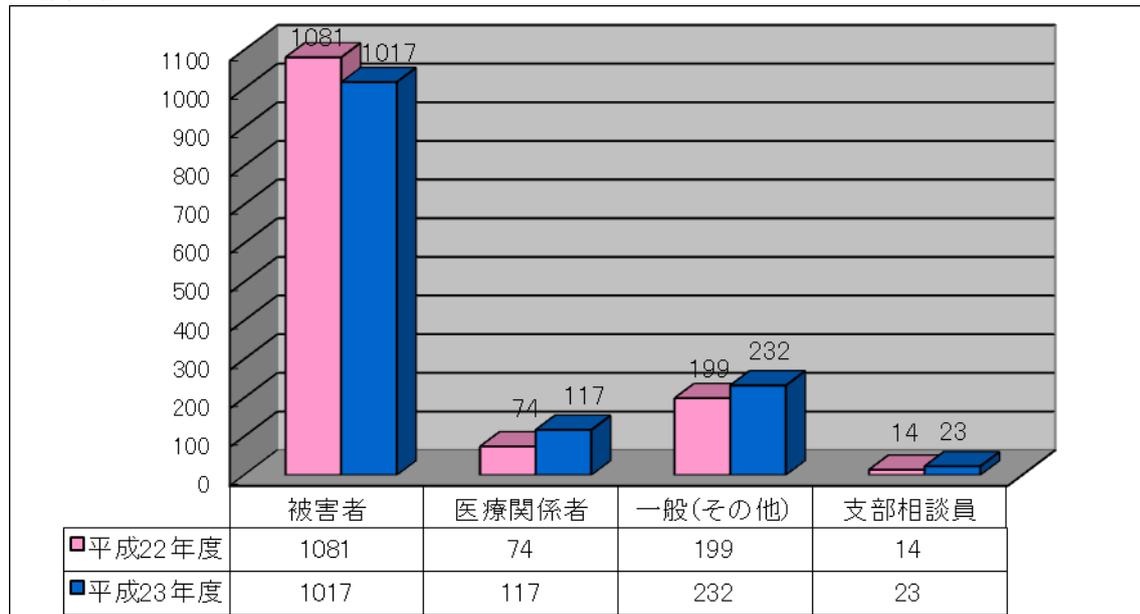
開 催 日	平成 23 年 10 月 17 日	参加人数	7 人
研修会名	遺族相談会・相談員研修会	会 場	宇奈月 ホテル溪仙 (富山県黒部市)
主 な 事 項	内容：「遺族相談会を終えて、課題の整理や今後の相談会などを研修」		

開 催 日	平成 23 年 12 月 15 日	参加人数	16 人
研修会名	全国相談員会議	会 場	レインボービル 6 階 (東京都新宿 区)
主 な 事 項	内容：「23 年度の事業についての振り返り、遺族健康相談事業での遺族検診の推進を 評価」		

開 催 日	平成 24 年 3 月 7 日	参加人数	14 人
研修会名	23 年度の相談事業、これまでを振り返 って 1. ケースカンファレンス、2. 相 談事業について、3. その他 (アンケ ートや聞き取り、各支部からの報告	会 場	飯田橋「日本ファイナンシャルアカ デミー」レンタルルーム (東京都新宿区)
主 な 事 項	内容：「24 年度での相談事業で、新たな遺族支援事業の展開と、患者の病状などに 応じた緊急対応などを認識する」		

資料 6. 前年度（22年度）との比較

▼相談者別 比較



▼被害者の相談件数 比較

	H22 年度	H23 年度
計	1,081 件	1,017 件

